

「つながりをもとめ（て）」→ 手作りの鉛筆入れと年賀状

手作り品 その1. 鉛筆入れとティッシュ入れ



私は趣味で鉛筆入れとポケットティッシュ入れを作っています。

ミシンを使い始めたのは小学生の時からで、65年前の話になります。最初はおふくろの使っていた足踏みミシンを使い、夏休みにセミをとる袋を作った記憶があります。再びミシンを使った思い出は、長男が生まれた時。哺乳瓶とおしめを入れるトートバックを作った事を思い出します。長男が中学生になった時、「鉛筆入れを作って欲しい。」と言われ、初めて鉛筆入れを作りました。子供たちの結婚式には、引き出物の一つに私の手作り鉛筆入れを加えてもらいました。

せっせと鉛筆入れを作り配っていると、逆に「こんなものが出来ますか。」とリクエストがあり、作れる物が増えてきました。最近では幼稚園・小学校入学に使用する通園・通学バッグ・上履き入れや、ティッシュ入れ、扇子入れも新しく私の手芸品メニューに加わりました。星野阪神が優勝した2003年にはトラのマークの入った阪神柄の生地の鉛筆入れを作り、阪神ファンの方へプレゼントしました。今までにティッシュ入れは500個以上、鉛筆入れは300以上作り配っています。

私から鉛筆入れをもらった人同士で私の知らないところで話がはずんだと聞きました。今では電車に乗った時、席を譲ってもらうことも増えて来ましたので、お礼に渡すティッシュ入れをリュックに入れて電車に乗っています。手芸の話、鉛筆入れ・ティッシュ入れを通して会話

のきっかけ作りにも使えますので、今後もせっせつと鉛筆入れとティッシュ入れを作り配っていこうと思っています。

手作り品 その2. 年賀状

昨今の年賀状はパソコンを使ってきれいに出来上がっていますが、申年生まれの方は干支1回目（12歳）から木版画の年賀状を作っています。

初めての木版画は、干支でなく学習雑誌の柔道漫画の主人公を彫った記憶があります。干支の木版画は酉年（13歳）から始まったように思います。今、手元に残っている木版画の板は全部で28枚、56年分（1枚裏表で2年分）です。一番古い物は1964年（辰年）の物です。彫り始めてから6回の引越しにも関わらず、良く残すことが出来たものと自分ながら感心しています。

版画の干支の図柄も、家族の出来事を彫っていたことも改めて思い出しました。次男が高校野球で甲子園（第74回大会）に出場した年の翌年の干支は申年（48歳）で、版画の図柄は申が野球のバッティングをしている図柄にしました。



又、再婚したのは2010年春で、翌年の干支がうさぎだったので図柄は2匹のうさぎが仲良く並んだ図柄にしました。



今後も、極少数派となった木版画で年賀状を作っていこうと思います。

（理事 河上勲）

❁ 次回のタイトルは、「う」から始まることばです。